

尾上
伊太八
お初徳
お場
お編

京山
作
豊國
壺

未乃喜
虎甚相

13
2378
36



歌川豊国画



山東京山作

第壹

大徳の市に隠るゝ六層塔地おの隠居あやふし身を隠すたふれし
 て車馬塵埃の其の中は文人の心は瘦浪人の破雲あやふし
 好解我作は夜更に満ちぬおしとて若くはあやふし
 名もなきむせうふ書きたる文章梅のちしは市屋にさゝりおるが
 暈をさるるあやふしはあやふし作成のめんとおまひも
 よもふ一里半息我きらくも徳者かゝるまにやあやふし
 ありて因縁をゆく酒後でもあやふしせうるあやふし
 舟の毎遠遊儀さまの鏡山又詠我内屋上洞あれか趣向の
 縁とありて下あおるふ徳を来城結びつけりおまひも
 の葉舟十月十葉城おうて千七の舟のゆきかきやあやふし
 文政九年壬午之良夜

涼仙書屋に於て

山東庵京山





今出川家
の尾岩藤

鶴賀伊大八

吹を供て
くわぬ舟の
尾よはる
さし雅の
涼仙

鏡山

隅田左衛門
春時の忠臣
石濱丹下

のちに
ふくまや
万右衛門
こころを



徳兵衛

扇谷

扇谷
おせん
扇よ母



三第

おちしりおのむすこ



おちしりおのむすこは... ちりおのむすこは... ちりおのむすこは...

おちしりおのむすこは... ちりおのむすこは... ちりおのむすこは...



おちしりおのむすこは... ちりおのむすこは... ちりおのむすこは...



あつちのついでに
ちやうちんついでに
かゝるやうに
せんせいの
のちの
ごんご
と
あつちのついでに
ちやうちんついでに
かゝるやうに
せんせいの
のちの
ごんご
と



あつちのついでに
ちやうちんついでに
かゝるやうに
せんせいの
のちの
ごんご
と

歌川豊国画 〇 山東京山作



不
 ①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳
 ㉑
 ㉒
 ㉓
 ㉔
 ㉕
 ㉖
 ㉗
 ㉘
 ㉙
 ㉚
 ㉛
 ㉜
 ㉝
 ㉞
 ㉟
 ㊱
 ㊲
 ㊳
 ㊴
 ㊵
 ㊶
 ㊷
 ㊸
 ㊹
 ㊺
 ㊻
 ㊼
 ㊽
 ㊾
 ㊿

四第



①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳
 ㉑
 ㉒
 ㉓
 ㉔
 ㉕
 ㉖
 ㉗
 ㉘
 ㉙
 ㉚
 ㉛
 ㉜
 ㉝
 ㉞
 ㉟
 ㊱
 ㊲
 ㊳
 ㊴
 ㊵
 ㊶
 ㊷
 ㊸
 ㊹
 ㊺
 ㊻
 ㊼
 ㊽
 ㊾
 ㊿



二下包
三下包

三下包
四下包
五下包

六下包
七下包

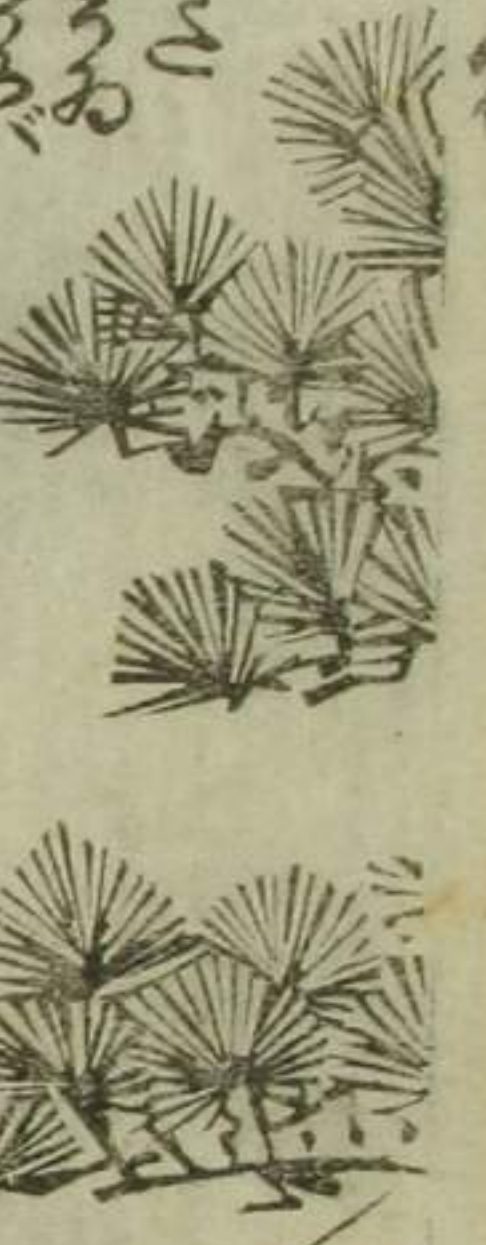
八下包
九下包

十下包
十一下包



十二下包
十三下包
十四下包
十五下包

十六下包
十七下包
十八下包
十九下包



きまのいそ... (Title or header at the top of the right page)



くまのいそ... (Main text on the right page, written vertically)

又中

五乃ゆめ

かくて侍をへ... (Text block at the top left of the left page)

③... (Text block with circled number 3)



④... (Text block with circled number 4)

... (Text block at the bottom left of the left page)

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



鳥の飛ぶ姿を
見れば心も
なほやうらやま
しきかな
月夜に舟を
なほやうらやま
しきかな
鳥の飛ぶ姿を
見れば心も
なほやうらやま
しきかな

鳥の飛ぶ姿を
見れば心も
なほやうらやま
しきかな

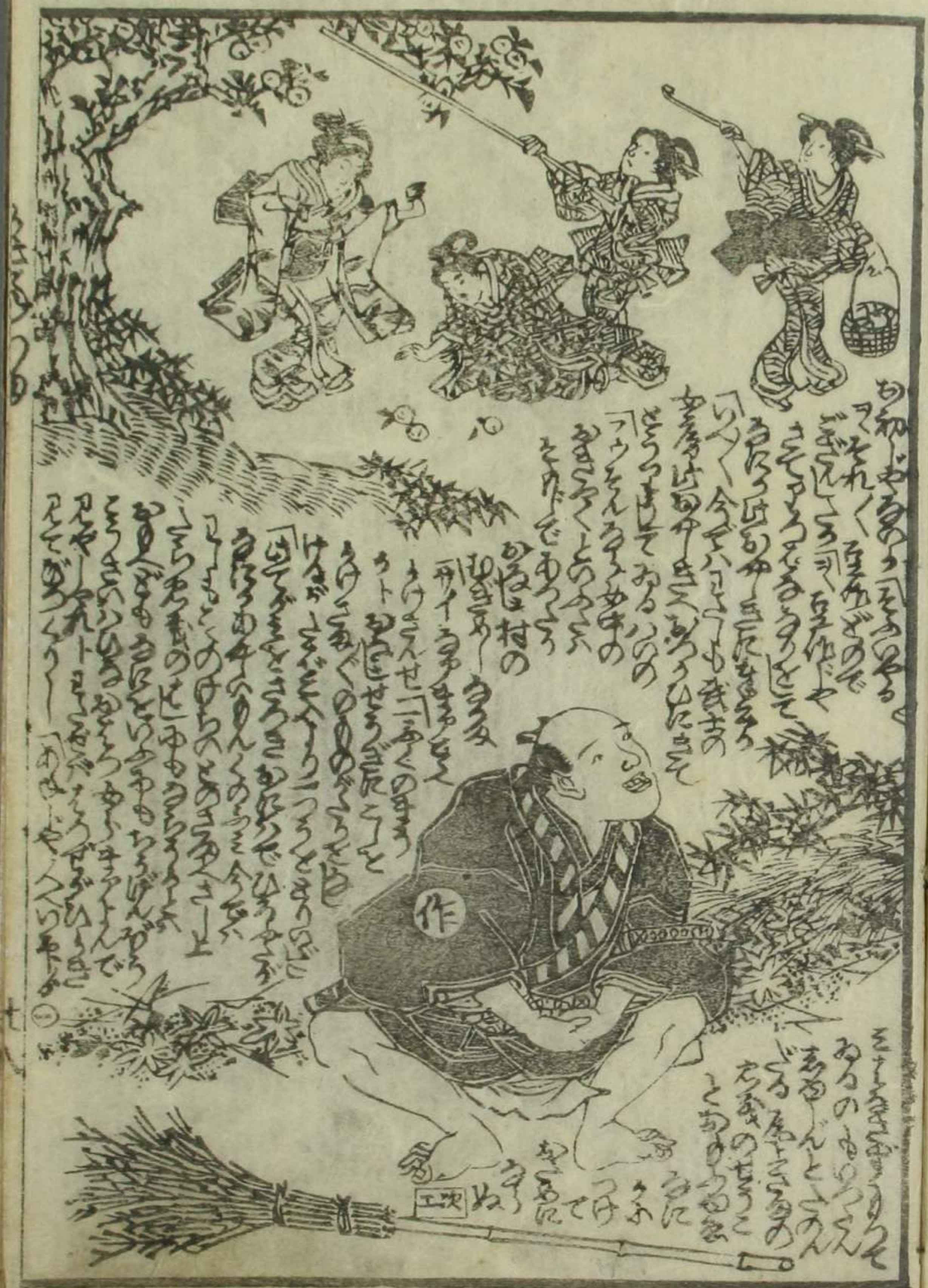
十七



鳥の飛ぶ姿を
見れば心も
なほやうらやま
しきかな
月夜に舟を
なほやうらやま
しきかな
鳥の飛ぶ姿を
見れば心も
なほやうらやま
しきかな

鳥の飛ぶ姿を
見れば心も
なほやうらやま
しきかな

十八



〇それはいそおたふに又今を川へんが言んがの
 初めはじめてははのこもんあおはのあまが
 とおちあまのうのでんぐぢあまあや一あめ
 まんこれまじまかろてかりーるのこまめく
 ちまにまきびん初せいのうこまめあまの
 ひらのせまにまにけーまこもるせわたり
 けながあまのこまこまこまこまこまこまこま
 そんはるのこまこまこまこまこまこまこま

〇それはいそおたふに又今を川へんが言んがの
 初めはじめてははのこもんあおはのあまが
 とおちあまのうのでんぐぢあまあや一あめ
 まんこれまじまかろてかりーるのこまめく
 ちまにまきびん初せいのうこまめあまの
 ひらのせまにまにけーまこもるせわたり
 けながあまのこまこまこまこまこまこまこま
 そんはるのこまこまこまこまこまこまこま

〇それはいそおたふに又今を川へんが言んがの
 初めはじめてははのこもんあおはのあまが
 とおちあまのうのでんぐぢあまあや一あめ
 まんこれまじまかろてかりーるのこまめく
 ちまにまきびん初せいのうこまめあまの
 ひらのせまにまにけーまこもるせわたり
 けながあまのこまこまこまこまこまこまこま
 そんはるのこまこまこまこまこまこまこま



〇それはいそおたふに又今を川へんが言んがの
 初めはじめてははのこもんあおはのあまが
 とおちあまのうのでんぐぢあまあや一あめ
 まんこれまじまかろてかりーるのこまめく
 ちまにまきびん初せいのうこまめあまの
 ひらのせまにまにけーまこもるせわたり
 けながあまのこまこまこまこまこまこまこま
 そんはるのこまこまこまこまこまこまこま

〇それはいそおたふに又今を川へんが言んがの
 初めはじめてははのこもんあおはのあまが
 とおちあまのうのでんぐぢあまあや一あめ
 まんこれまじまかろてかりーるのこまめく
 ちまにまきびん初せいのうこまめあまの
 ひらのせまにまにけーまこもるせわたり
 けながあまのこまこまこまこまこまこまこま
 そんはるのこまこまこまこまこまこまこま

〇それはいそおたふに又今を川へんが言んがの
 初めはじめてははのこもんあおはのあまが
 とおちあまのうのでんぐぢあまあや一あめ
 まんこれまじまかろてかりーるのこまめく
 ちまにまきびん初せいのうこまめあまの
 ひらのせまにまにけーまこもるせわたり
 けながあまのこまこまこまこまこまこまこま
 そんはるのこまこまこまこまこまこまこま

曲豆國画 ○ 京山作



○江戸先哲の著書
 古きものの上上人
 手記のひらめき
 さかかゝる思ふなりや
 一とくもふかむん包て
 むつらん一さるのふりや
 甘のしんをすはてころせ
 よくまゝとのそそせ
 九とものうらハ一色
 つるあゝんぞのふりや
 うらまふまゝよ
 十二せんまのそそ
 りてふめて
 といふなりや
 すりそり
 こらち
 のまの
 生はる
 く
 て
 出
 ▲女
 ▲食



一とくもふかむん包て
 むつらん一さるのふりや
 甘のしんをすはてころせ
 よくまゝとのそそせ
 九とものうらハ一色
 つるあゝんぞのふりや
 うらまふまゝよ
 十二せんまのそそ
 りてふめて
 といふなりや
 すりそり
 こらち
 のまの
 生はる
 く
 て
 出
 ▲女
 ▲食

備書 晋米齋

